

知ってた？暮らしに役立つちょっといいところ

加古郡リサイクルプラザ

子育てにうれしい！ ベビー用品のリユース貸出



子どもの成長と共に必要なベビー用品を全て買い揃えるのは大変です。加古郡リサイクルプラザのプラザ棟「はりま里彩来館（リサイクルかん）」では、住民から善意で提供された中古のベビー用品を加古郡在住の方は、**家族5点まで1年間無料で借りることができます。**

不要になったものが必要とする人に巡り回る住民同士のリユースの取り組みは、平成10年から続いています。なんととっても驚くのはその保有数。チャイルドシート327台、ベビーカー870台、食卓いす182脚（2022年3月時点）の他、ベビーバス・歩行器・ゲートが所狭しと並べられています。実際はほとんどが貸出中なので、展示しているのはごく一部。希望のものを予約することはできませんが、足を運んでみると使ってみたくて思っていたものに出会えるかもしれません。

また、工場棟では加古郡内の家庭から排出される粗大ごみ・不燃ごみ等を無料で受け付けています。「収集日を逃してしまった！」という時も安心。住民によりそうサービス満載の施設です。



加古郡リサイクルプラザ

播磨町新島60 ☎079-437-7671

📄 搬入時間：月～金 8時～12時、13時～15時30分

📄 工場棟 土・祝日・年末（12/29～12/31）8時～11時30分

📄 休場日：日・正月（1/1～1/3）

📄 開館時間：9時～16時

📄 休館日：月・火・年末年始（12/29～1/3）

※2023年4月1日（土）から休館日が変わります：毎週日曜日・第2及び第4月曜日、年末年始（12/29～1/3）

最新情報はここから▶



すくすくはりま by 母子モ

妊娠～育児をサポート！

妊娠・出産・子育ては、小さな不安や成長の喜びがいっぱい。子育てアプリ「すくすくはりま by 母子モ」は、予防接種スケジュールや成長記録、町内の情報など、妊娠から出産、育児までをフルサポートしてくれる母子手帳アプリです。

家族間で情報を共有できるので、みんなで成長を見守ることができます。母子健康手帳をなくしてしまった時のバックアップにもなり便利。無料で使えるので、スキマ時間にどんどんお子さんの成長記録を書き込んでみませんか。

無料アプリのダウンロードはここから▶

「すくすくはりま by 母子モ」の機能例

- ・妊婦検診や子どもの成長を記録（グラフ化）
- ・月年齢に合った町の子育て支援情報を受信
- ・町の施設（病院、保育園、子育て施設など）の案内
- ・成長記録を写真と日記で残せる ほか



播磨町について



1962（昭和37）年4月に「阿閉村」から「播磨町」になりました。町の面積は兵庫県で最も小さく、その3割が海を埋め立てた人工島です。JR土山駅と山陽電鉄播磨町駅の2駅があり、神戸から40分、姫路から30分の海沿い位置にある交通至便な町でもあります。

人口：34,768人（2022年9月1日現在）

面積：9.13km²

町の花：菊 町の木：松

文化・歴史：大中遺跡、新聞の父・ジョセフ・ヒコ、新井開削の父・今里傳兵衛

マスコットキャラクター：いせきくん、やよいちゃん

特産：干しだこ、海苔、わかめ

景観：平地、瀬戸内海

3×3 は、住民ライターが書いています！

播磨町に住んで11年。まだまだ知らないことはたくさん。取材を通して知っていただけたら嬉しいです！ by K.I

移り住んでうれしかったことの1つが、自転車でまち中を巡れること。ぎゅっと詰まったまちの魅力を知ってきたいです！ by K.S

「明石の近く」と言うのはやめようとして数年。「播磨町？どこそれ？」から広がる会話もいいですね。 by M.K

播磨町の知られざるいろいろを、若い住民ライターが紡ぐと見え方が変わる！新しい発見でした。 by 編集 K.M

3×3（さんカケさん） 播磨町のちょっといいところ NO.01

発行：2022年10月24日 播磨町役場

TEL 079-435-0355（代表）/079-435-0356（企画課）

編集：播磨町企画課・特定非営利活動法人ニニュー☆ハリマ

兵庫県で一番小さなまち、播磨町。面積：約3km×3km（=9.13km²）にある、色んな「ちょっといいところ」をお届けします。新しく住む人もこれまで住んできた人も、ずっと保存したくなる播磨町の場所・人・ことに出会ってください。



特集 つくり手にきいてみた 播磨町のイベント

大中遺跡まつり ————— 増田進司さん

播磨町ロードレース大会 — 尼木智美さん

はりま風薫るフェスタ ————— 池本博保さん

知ってた？暮らしに役立つちょっといいところ

子育てにうれしい！ベビー用品のリユース貸出 — 加古郡リサイクルプラザ

妊娠～育児をサポート！ ————— すくすくはりま by 母子モ

大中遺跡まつり

火がついた瞬間の歓声に感動する それがやりがいです

火起しの儀 火の司 増田進司さん（神戸常盤大学教員）



播磨町で一番自然を感じられる場所、大中遺跡。この遺跡を舞台に11月の第1土曜日に開かれる「大中遺跡まつり」は、町民なら知る人も多いのでは。さまざまな模擬店、音楽やダンスのステージ、このまつりならではの古代生活体験コーナーなどがあり、毎年多くの人で賑わいます。

古代の雰囲気を感じ出す神秘的な儀式

まつりの始まりを告げる催しが「火起しの儀」。現代的なマッチやライターは使わず「舞ざり」という道具を使い、木と木をこすり合わせ火を起こし、会場のかがり火へと点火する神秘的な儀式です。儀式の監督役は「火の司」と呼ばれ、この大役を第1回から30年以上にわたり務めてきたのが増田進司（ますだ しんじ）さんです。



「火の司」をつとめる増田さん

小さい頃から化石が好きだった増田さん。発掘調査をしたいと考古学の道へ進み、小学校教師をしながら調査活動に参加、その中で播磨町の郷土資料館建設の事前調査に加わり、大中遺跡まつりと関わっていくことになりました。「大中遺跡の横というだけあって、郷土資料館の

事前調査では住居跡や土器などたくさんの出土があったんだけど、他の遺跡に比べてどうにも認知度が低い。どうにかならないか……と歴史講座や土器づくり体験を始め、どうせなら火起し体験も、と舞ざりを作りました。その少し後、まつりをする話が出たときに、火起しを開会の儀式にしよう!となったのです」

面白くするためのアイデア

「儀式ならば大きいものがいい」と、固定する係4人と回す係6人で火を起こす「ジャンボ舞ざり」が生まれました。ネットで検索してもこのサイズの舞ざりは播磨町くらいにしかありません。もしや日本で一番大きいのかも!? 「ただ火をつけるだけよりも、儀式として面白くしようと色々考えました。古代の人たちは鳥を神聖視して大事にしていたから、鳥の巣に見立てた土器に火の鳥が飛来して火が灯るようなイメージを表現したくて、発火用の草束を鳥の形にして、土器には松ぼっくりと草で鳥の巣を作ってね。舞ざりも全部手作りです。たくさんの人を巻き込んで今の形に育っていきました」



「ジャンボ舞ざり」で火を起こす

自然の力を体感できる

町のみんで作り上げてきたからこそ、まつりを大事に思っている増田さん。「人の手でやる火起しは、自然が相手。天候にも左右されるし、火がうまくつくように毎回しっかり準備します。終わったらホッとする。火がついた瞬間のお客さんの歓声は毎回感動して、それがやりがいです」

大中遺跡まつりのおすすめポイントは?とお聞きすると「自然の力を体感できるころかな。今は火を使う機会も少なくなっているし、火を起こす体験ができるのはとても良いと思う」とのこと。

人が力を合わせて大きな舞ざりをまわし、火を起こす。「人と火」を体感する機会としてこれ以上のものはないかもしれません。増田さんのお話を聞き、次的大中遺跡まつりではオープニングの火起しの儀から参加したい!と感じました。

みなさんも、増田さんが仕切る火起しの儀を親に行きませんか?



大中遺跡まつり

毎年11月の第1土曜日に大中遺跡公園で開催。国指定史跡「大中遺跡」からイメージする「弥生時代のムラまつり」をテーマにしています。播磨町の特徴ある秋のイベント。

問合せ ☎079-435-5000 (大中遺跡まつり実行委員会 (事務局 播磨町郷土資料館内))



最新情報は
こちらから▼

播磨町ロードレース大会

アットホームなので親子で参加してほしい

大会運営 事務局 尼木智美さん

冬の風物詩の一つ、マラソン大会。播磨町では毎年1月の第4日曜日に「播磨町ロードレース大会」が開催されています。実は今年度で45回目。最も多い年には約1600人が参加した、町内随一のスポーツイベントです。

参加者の多くは子どもたち

メイン会場は播磨南小学校の運動場。門の前を出発して町道浜幹線を北上、折り返し地点を経て再び戻ってくるのが現在のコースです。小中学生、一般、ファミリーを対象に計17部門あり、参加者の多くは小中学生の子どもたちです。サッカーや野球のユニホーム姿もちらほら。

「公認大会ではないので、アットホームな雰囲気ですよ」と教えてくれたのは、11年前から大会運営を担う「NPO法人スポーツクラブ21はりま」クラブマネージャー・尼木智美（あまきさとみ）さん。



小学生の陸上クラブチームで指導する尼木さんは、「最近では学校でマラソン大会がないので、順位がつく大会は力試しになる」と話します。特に播磨町の小学生は、各部門で町内上位3位以内の「町内賞」を目指します。尼木さんも、教え子たちにこれを目標にするよう伝えているとか。

「町外の速い子たちもたくさん参加するから、全体で上位はなかなか難しいんです。こういう目標があると普段の練習にもやりがいを感じられるかなと」

家族で手をつなぎゴールする姿も

また、年々エントリーが増えているのが「ファミリー部門」。3歳から参加でき、仮装もOK!家族でお揃いの格好をしたり、着ぐるみを被ったり。

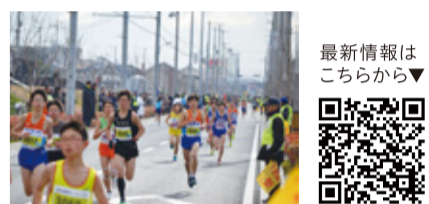


「ファミリー部門」のスタート

問合せ ☎079-437-2201 (スポーツクラブ21はりま)

親子が手をつないでゴールする光景は、会場のみんなの心を温めます。「ファミリー部門を見ていたらすごく可愛らしくて、いいなって思います。距離も短いアットホームな大会なので、町内の子どもたちに小さい時から一緒に参加してもらえたらうれしいですね」

開催中止が続くコロナ禍でも、浜幹線で練習する親子の姿をよく見かけるそう。毎年の出場を楽しみにしている家庭も多いのではないのでしょうか。力試しとしてはもちろん、家族での思い出づくりに参加してみても?



播磨町ロードレース大会

毎年1月第4日曜日に開催。ファミリーの部以外は順位とタイムを記録。一般の部は39歳以下と40歳以上に部を分けていることから、高齢ランナーの参加も多く、まちの中を走るコースは沿道からも大きな声援が飛び交います。

問合せ ☎079-437-2201 (スポーツクラブ21はりま)



最新情報は
こちらから▼

はりま風薫るフェスタ

お子さんが花苗を喜ぶ姿がうれしいです

花と緑の協会 池本博保さん

毎年4月に大中遺跡公園で開催される「はりま風薫るフェスタ」は、スポーツや福祉の体験コーナーやステージ発表などを楽しめる緑化イベントです。この会場で、花苗が無料配布されていることを知っていますか?

その数なんと1000人分! (一人2株ずつ配るので合計2000株) 花苗を育てるのは「花と緑の協会」のみなさんです。どんな思いで無料配布されているのでしょうか?会長の池本博保(いけもとひろやす)さんにお話を伺いました。



「花と緑の協会」による花苗の無料配布



花苗を育て、町内の緑化に

花と緑の協会は約45年前から活動し、メンバーのほとんどが70~80代。年間約3万株の花苗を育て、町内の緑化に役立てます。現在は町役場前や中央公民館前、公園などの花壇の管理、警察署や消防署のプランターの植付け、教育施設への花苗の提供などを行っています。

風薫るフェスタで無料配布するのは、開催時期に開花するマリーゴールドやサルビア、百日草など、色とりどりの花苗。「受け取った人はみなさん

喜んでくれますよ。子どもさんは特に。1歳くらいの赤ちゃんにも渡しています」と池本さん。

子どもたちが興味をもってくれたら

「播磨町の住民憲章に“花と緑を育て、うるおいのあるまちをつくります。”とあります。無料配布はその一環だと思っています。コロナが落ち着いたら、花の相談会や寄せ植え展示も再開したいですね。子どもさんも参加して、花を育てることに興味をもってくれたらうれしいです」

花苗を育てるのは大変な作業だといえます。それでも、「花壇の手入れ中に声をかけてくれたり、花苗を受け取って喜ぶ子どもの姿を見るとうれいんです」と笑顔で話してくれました。

いただいた花を自宅で育てたり、花の育て方のコツを教えてもらったり。暮らしの中で花や緑に親しみきっかけが生まれる「はりま風薫るフェスタ」へ、みなさんも遊びにいらしてみてもうでしょう。



はりま風薫るフェスタ

毎年4月に大中遺跡公園とその周辺で開催している春のイベント。スポーツ体験、健康ブース、学びのコーナー、福祉大会など、模擬店や有志によるステージなどでにぎわいます。緑化イベントでは、緑の相談所も開設。

問合せ ☎079-435-0565 (はりま風薫るフェスタ実行委員会 (事務局 協働推進課内))



最新情報は
こちらから▼